

歩行・移動の再建

機能回復を社会参加へと結実させる

—2040年を見据えたテクノロジーの活用と神経理学療法—

オープニングリマークス

集会長 猪村 剛史（広島大学）

基調講演

歩行・移動を支援するテクノロジーの活用による
神経疾患患者の社会参加への挑戦

小山 総市朗（藤田医科大学）

教育講演

歩行の神経生理学と臨床へのティップス

松浦 晃宏（広島国際大学）

シンポジウム

症例に学ぶ歩行・移動の再建と社会参加

■脳卒中におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加

遠藤 正英（桜十字福岡病院）

■脊髄損傷における歩行/移動の再建と社会参加

高橋 雄平（吉備高原医療リハビリテーションセンター）

■重症症例の在宅生活における移動能力の最大化

馬上 泰次郎（コールメディカルクリニック広島）

■小児におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加

島谷 康司（県立広島大学）

総合討論

2026.8.9 (sun)

START-9:30 END-16:10

広島大学大学院保健学研究棟203 / オンデマンド配信

セミナー番号：対面 158052 / オンデマンド 158053

主催：一般社団法人 日本神経理学療法学会



第37回日本神経理学療法学会
サテライトカンファレンス広島

第 37 回日本神経理学療法学会 サテライトカンファレンス抄録集

歩行・移動の再建

機能回復を社会参加へと結実させる

- 2040 年を見据えたテクノロジーの活用と神経理学療法 -



会期：2026 年 8 月 9 日（日）

会場：広島大学 霞キャンパス（保健学研究棟 203）

主催：一般社団法人 日本神経理学療法学会

集会長：猪村 剛史

【大会趣旨】 歩行・移動の再建

機能回復を社会参加へと結実させる

— 2040 年を見据えたテクノロジーの活用と神経理学療法 —



集会長 猪村 剛史

広島大学大学院 医系科学研究科

理学療法士はこれまで、移動機能、とりわけ歩行の再建に対し、科学的探究と臨床実践の両面からたゆまぬ努力を重ねてきました。運動学や神経科学の進歩を背景に、評価法や治療手技は洗練され、装具療法やロボティクスの発展とともに、神経疾患を発症された方の歩行再建の可能は着実に広がっています。

一方で、わが国は 2040 年を見据え、急激な人口減少さらには生産年齢人口の減少という大きな社会構造の変化に直面しています。医療・介護需要の増大と生産年齢人口の減少が進むなか、社会保障制度の持続可能性は重大な課題となっています。その中で、医療専門職には、個々の機能回復を超えて、社会全体に新たな価値を生み出す視点と実践が強く求められています。

遠隔技術の進展により、移動はもはや社会参加の絶対条件ではありません。また、「移動できないこと」が直ちに社会参加の可能性を閉ざすわけでもありません。しかし、主体的な身体的移動は、就労や教育、地域活動、経済活動への参画を可能にし、社会的・経済的価値を生み出す重要な基盤の一つです。移動を支える理学療法士の専門性は、個人の機能回復を超えて、社会の持続可能性に貢献し得るものと考えます。

今こそ、私たち理学療法士がこれまで積み重ねてきた歩行・移動再建の知と技を、国が直面する社会課題の解決へと活用する時ではないでしょうか。その実現には、治療技術の深化のみならず、支援体制の構築、さらにはロボティクス、デジタル技術などのテクノロジーの積極的活用が不可欠です。

本サテライトカンファレンスは、神経理学療法に関わる理学療法士の英知を結集し、歩行・移動の再建を単なる「機能回復」や「能力改善」ととどめることなく、「社会参加への結実」へと昇華させる方略を探究する場としたいと考えております。2040 年を見据え、臨床・研究・教育の垣根を越えた議論を通じて、未来社会における神経理学療法学の新たな役割と可能性を共に展望する機会となることを願っています。

【参加される皆様へ】

1. 開催概要

会期：2026年8月9日（日）

会場：広島大学霞キャンパス（保健学研究棟 203）

開催方法：対面+オンデマンド配信（※ライブ配信はございません）

2. 参加登録について

※当日の参加登録はございません。事前の参加登録をお願いいたします

※対面+オンデマンド配信視聴の方、オンデマンド配信視聴のみの方でセミナー番号が異なるため、ご注意ください

..... セミナー番号

対面参加+オンデマンド配信（ポイント付与あり）：	<u>158052</u>
オンライン配信のみ（ポイントなし）：	<u>158053</u>

※セミナー番号のお間違えのないようご注意ください※

※オンデマンド配信のみでは生涯学習ポイントが付与されませんのでご注意ください

参加登録期限：

【口座振替での決済】

2026年8月2日（日）

【クレジットでの決済】

2026年6月29（金）

3. 参加費ならびに会員種別

会員種別	参加費	申込方法
専門会員A・B	¥3,000	日本理学療法士協会マイページ
一般会員・協会員	¥3,000	日本理学療法士協会マイページ
学生会員（会員）	¥500	日本理学療法士協会マイページ
非協会員	¥5,500	Payvent
他職種	¥4,400	Payvent
学生（非会員）	¥550	Payvent

会員種別について

1. 専門会員 A・B : 日本神経理学療法学会の会員A・会員B
2. 一般会員・協会員 : 日本理学療法士協会会員
3. 学生会員（会員） : 日本神経理学療法学会に所属している学生
4. 非 協 会 員 : 理学療法士で日本理学療法士協会の非会員
5. 他 職 種 : 理学療法士以外の医療従事者
6. 学 生（非会員） : 養成校へ通っている日本神経理学療法学会に所属していない学生

※日本理学療法士協会 会員外の方は 下記リンク先の [Payvent](#) より参加登録・お支払いをお願いいたします

[【対面参加+オンデマンド視聴用】第 37 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス広島 | Payvent\(ペイVENT\) | 学会・国際会議向けクレジットカード決済 & 参加者管理サービス](#)

[【オンデマンド視聴のみ】第 37 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス広島 | Payvent\(ペイVENT\) | 学会・国際会議向けクレジットカード決済 & 参加者管理サービス](#)

4. 領収書

日本理学療法士協会会員の方：

日本理学療法士協会マイページのより領収書の発行をお願いいたします。

日本理学療法士協会会員外の方：

payvent にて参加申し込み後、返信メールより領収書のご確認をお願いいたします。

5. 受付（対面参加）

※参加登録名簿にて受付を行います。受付時にご氏名をお伝えください。

受付場所：2026 年 8 月 9 日（日）9 時から

受付時間：広島大学保健学科棟 203 前

6. 新生涯学習制度におけるポイント・点数取得について

参加方法	生涯学習制度	カリキュラムコード
サテライトカンファレンス対面参加	登録理学療法士更新 5ポイント	60 : 社会参加
サテライトカンファレンス対面参加	認定/専門理学療法士更新 5点	—

※ポイント・点の付与は対面参加のみとなります。

7. 飲食について

学内の食堂・売店は当日休業しております。

会場周辺にコンビニ等がございますので昼食は各自ご用意ください。

会場内は飲食可能ですが、ゴミは各自でお持ち帰りください。

8. 質疑応答について（対面参加）

質問の採否については当日の司会へ一任しております。進行状況等によっては質疑応答の時間が確保できない場合がございます。予めご了承ください。

また、ご質問・ご発言される方は挙手をお願いします。司会の指示を待ち、所属ならびに氏名を述べてからご発言ください。

9. オンデマンド配信について

1) 配信期間：8月10日（月）～30日（日）

本カンファレンスのホームページのオンデマンド配信ページ（下記リンクまたは QR コード参照）より、パスワードを入力の上でご覧ください。

【リンク】[日本神経理学療法学会 サテライトカンファレンス広島](#)

【QR コード】



2) 注意事項

※下記の注意事項の順守をお願いいたします。

- ・オンデマンド配信の視聴に必要なパスワードは申込者へのみ事前にお送りしております。他所への共有等はお控えください。
- ・無断での録画・録音・撮影禁止をお願いいたします。
- ・資料の二次利用、共有の禁止をお願いいたします。
- ・オンライン聴講では、インターネット回線の通信費用は利用者様ご自身での負担となりますので、予めご了承ください。

10. その他

- ・紙媒体での抄録集の配布はございません。
- ・会場内にクロークはございません。
- ・会場内では、携帯電話やスマートフォンの電源を切るか、マナーモードへの設定変更をお願いいたします。
- ・本会内容のカメラ・ビデオ撮影、録音などは講演者や発表者の著作権保護やプライバシー保護のため固くお断りいたします。

1 1. お問い合わせ先

事務局：

広島大学大学院 医系科学研究科 保健学研究棟 913

〒734-8553 広島県広島市南区霞 1-2-3 広島大学大学院保健学研究棟 913

書類郵送先：

広島県理学療法士会「第 37 回日本神経学療法学会サテライトカンファレンス事務局」宛

〒732-0052 広島県広島市東区光町 2-6-41 セネスビル 5F

E-mail：37th.jsnptsc@gmail.com

詳細についてはお気軽にお問い合わせください

【プログラム】

○オープニングリマークス 9時30分～10時00分

集会長 猪村 剛史 氏（広島大学）

○基調講演 10時05分～11時05分

テーマ 「歩行・移動を支援するテクノロジーの活用による神経疾患患者の社会参加への挑戦」

講師 小山 総市朗 氏（藤田医科大学）

司会 坂本 隆徳 氏（福山記念病院）

○教育講演 11時15分～12時15分

テーマ 「歩行の神経生理学と臨床へのティップス」

講師 松浦 晃宏 氏（広島国際大学）

司会 矢戸 健一郎 氏（五日市記念病院）

○シンポジウム 13時15分～15時20分

メインテーマ 「症例に学ぶ歩行・移動の再建と社会参加」

司会 田邊 淳平 氏（広島都市学園大学）

- 脳卒中におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加 -

遠藤 正英 氏（桜十字福岡病院）

- 脊髄損傷における歩行/移動の再建と社会参加 -

高橋 雄平 氏（吉備高原医療リハビリテーションセンター）

- 重症症例の在宅生活における移動能力の最大化 -

馬上 泰次郎 氏（コールメディカルクリニック広島）

- 小児におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加 -

島谷 康司 氏（県立広島大学）

○総合討論 15時30分～16時10分

講師 小山 総市朗 氏（藤田医科大学）

遠藤 正英 氏（桜十字福岡病院）

高橋 雄平 氏（吉備高原医療リハビリテーションセンター）

馬上 泰次郎 氏（コールメディカルクリニック広島）

島谷 康司 氏（県立広島大学）

司会 猪村 剛史 氏（広島大学）

○クロージング・閉会 16時10分～16時15分

【基調講演】

「歩行・移動を支援するテクノロジーの活用による神経疾患患者の社会参加への挑戦」



小山 総市朗

藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

要旨

我が国では、救命率の向上やリハビリテーション医学の発展に伴い、神経疾患による後遺障害を有しながら社会生活を営む者が増えている。こうした対象者にとって、移動能力の向上は社会生活の継続および社会参加に不可欠である。近年では、テクノロジーの進化を背景として、歩行・移動支援のテクノロジーが次々と登場している。そして、政府による「ロボット介護機器開発・導入促進事業」等の公的支援も、その社会実装を後押ししている。

本講演では、歩行・移動支援テクノロジーの社会実装に向けた取り組みの経験を共有するとともに、対象者の社会参加に資するテクノロジーとの共生社会について考察する。

略歴

【学歴】

2007 年 藤田保健衛生大学 リハビリテーション専門学校 卒業

2011 年 藤田保健衛生大学大学院 修士課程修了

2016 年 総合研究大学院大学 博士課程修了

【職歴】

2007 年 河村病院 リハビリテーション部

2016 年 藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科（現在に至る）

その他（業績、所属学会、学会役員等）

Koyama S, et al. BMC Geriatrics. 2026; 26(1):430.

Nakagawa Y, et al. JMIR Formative Research. 2025; 9:e71265.

Ito T, et al. Biomimetics. 2025; 10(12):820.

Kondo h, et al. Assistive Technology. 2024; 36(4):309-318.

【教育講演】

「歩行の神経生理学と臨床へのティップス」



松浦 晃宏

広島国際大学 総合リハビリテーション学部

要旨

日常生活における歩行は、平坦路での定常歩行だけでなく、障害物回避、二重課題、不整地歩行など、多様な条件下で遂行されます。その背景には、脊髄・脳幹による自動的制御に加え、大脳皮質を含む上位中枢の関与があることが、近年の歩行計測技術の進歩により明らかにされてきています。本講演では、歩行に関わる神経生理学的知見を概説し、歩行課題に応じた大脳皮質活動の変化について整理します。これらの知見が、歩行リハビリテーションにおいて定常歩行練習にとどまらない課題設定を考えるための、臨床的ヒントとなることを目指します。

略歴

【学歴】

1999 年 YMCA 米子医療福祉専門学校理学療法士科卒業

2009 年 島根大学大学院医学系研究科修士課程修了

2015 年 島根大学大学院医学系研究科博士課程修了

【職歴】

1999 年 大山リハビリテーション病院リハビリテーション部

2002 年 大山リハビリテーション病院リハビリテーション部 室長

2018 年 広島国際大学総合リハビリテーション学部 講師

2022 年 広島国際大学総合リハビリテーション学部 准教授（現在に至る）

その他（業績、所属学会、学会役員等）：

1. 松浦晃宏, 森大志. 脳卒中後運動障害の 機能再編における 皮質-網様体脊髓路の役割. 脳神経内科. 2025;103(3):252–256.
2. Matsuura A et al. Transcranial direct current stimulation to dorsolateral prefrontal cortex improves performance of obstacle avoidance gait task. Neuroreport. 2023;34(12):624–628.
3. Matsuura A et al. Obstacle avoidance movement-related motor cortical activity with cognitive task. Exp Brain Res. 2021;240(2):421–8.
4. Nishioka Y, Matsuura A et al. Cortical Beta Oscillations Contributing to Precision Stepping at Gait Initiation. Eur J Neurosci. 2026;63(4):e70434.

【シンポジウム】 症例に学ぶ歩行・移動の再建と社会参加

「脳卒中におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加」



遠藤 正英

桜十字グループ 福岡事業本部

要旨

脳卒中後の歩行・移動の再建は、機能回復にとどまらず、就労や地域生活といった社会参加につなげていく視点が重要である。ロボティクスやウェアラブル機器に加え、電動車椅子やパーソナルモビリティ等も含めた支援技術の活用を通して、歩行の獲得に固執しない「移動手段の最適化」という考え方について、臨床の中での一つの捉え方として触れる。評価・介入・環境調整を一体的に捉え、生活期まで連続する支援の在り方にも触れながら、移動の再建を社会参加へとつなげていくための可能性を考える。

略歴

【学歴】

2004年3月 国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院 理学療法学科 卒業

【職歴】

2004年4月 医療法人順和 長尾病院 リハビリテーション部

2012年1月 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院 リハビリテーション部

2017年4月 専門学校柳川リハビリテーション学院（非常勤講師）

2018年4月 桜十字先端リハビリテーションセンター

2020年4月 九州医療スポーツ専門学校（非常勤講師）

2021年4月 専門学校麻生リハビリテーション大学校（非常勤講師）

2021年4月 桜十字グループ 福岡事業本部

2023年4月 令和健康科学大学（非常勤講師）

その他（業績、所属学会、学会役員等）

一般社団法人日本支援工学理学療法学会 副理事長

公益社団法人福岡県理学療法士会 副会長

福岡県理学療法士連盟 副会長

一般社団法人 日本義肢装具学会 正会員

「脊髄損傷における歩行/移動の再建と社会参加」



高橋 雄平

吉備高原医療リハビリテーションセンター

要旨

「移動の再建」は脊髄損傷者の社会参加に不可欠で、最も重要な要素の一つである。「歩行の再建」は移動を再建するための一手段となるが、立位・歩行への取り組みそのものが、心肺・排泄・認知・運動等の様々な機能の維持や向上に役立つものであり、ADLの改善や介助量の軽減に加え、心理的效果も期待される。そのため、社会参加への直結の可否によらず、積極的に取り組まれてきた。近年は歩行が可能となりうる不全損傷者の増加や再生医療の台頭により、「機能回復や立位・歩行」へのアプローチとそれを支援する機器への関心が高まる傾向にある。この機会を活かすためにも、「歩行の再建」のためのリハビリテーション医療は、獲得し得る「歩行」とそれに必要な期間の見定めを基礎として、実用的な移動手段を視野に入れた介入とのバランスの上に成り立つことを認識しておく必要がある。

今回は、脊髄損傷者の「機能回復」や「立位を含めた歩行・移動の再建」を、いかに「社会参加に結実させる」かについて、当センターで実践している理学療法アプローチや工夫点を述べる。

略歴

- 2009年 専門学校九州リハビリテーション大学校 卒業
- 2009年 吉備高原医療リハビリテーションセンター 入職
- 2019年 朝日医療大学校理学療法学科 非常勤講師（中枢神経系理学療法学：脊髄損傷）
- 2019年 中級パラスポーツ指導員
- 2020年 認定理学療法士（脊髄障害）

その他（業績、所属学会、学会役員等）

<学会活動>

・第51回日本理学療法学術大会 学術集会長賞 「多肢切断者における義足歩行-エネルギー消費の観点から」

・日本義肢装具学会（用語委員、JIST0101 改正原案検討委員）

<講演活動>

・枚方理学療法士会脊髄損傷研修会(2022) 「高齢頸髄不全損傷者のリハビリテーション」

・日本義肢装具学会第41回研修セミナー(2024) 「下肢切断の基本：断端管理」

・第32回脊髄損傷理学療法研究会(2025) 「回復期における不全麻痺者への取り組みと課題」

「重症症例の在宅生活における移動能力の最大化」



馬上 泰次郎

医療法人社団 CMC コールメディカルクリニック広島

要旨

在宅の重症心身障害者や神経難病患者において、移動能力の維持は QOL に直結する。身体機能が低下しても「歩けない＝外出できない」と諦めるのではなく、いかなる手段で移動を継続し、生活範囲を維持・拡大するかを検討するべきである。本発表では、訪問リハビリテーションで介入している ALS や筋ジストロフィー等の症例を通じ、屋内生活空間の身体活動指標（home-based life-space assessment）を用いて生活範囲の変化を可視化し、適切な支援の判断について述べる。

事例紹介では、入院から在宅への移行過程において、身体機能の低下が生活の縮小に繋がらないための具体的な支援経過を報告する。姿勢管理や福祉用具の導入、重度訪問介護等のサービス活用、福祉車両による外出の工夫など、本人・家族の「したい」と「できる」のギャップを埋め、重症化してもその人らしい生活を支え続けるための関わり方を共有したい。

略歴

【学歴】

2008 年 3 月 大阪リハビリテーション専門学校 理学療法学科卒業

【職歴】

2008 年 4 月 大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科

2015 年 1 月 有限会社スマイル

2016 年 1 月 医療法人社団 CMC コールメディカルクリニック広島 訪問リハビリチーム

その他（業績、所属学会、学会役員等）

- 1)在宅呼吸療法の災害に対する備えについて～在宅避難の選択～ 日本在宅医療連合学会 シンポジウム 2020
- 2)神経難病・人工呼吸器使用者の呼吸リハビリテーションと在宅ケア 月刊難病と在宅ケア 2021；27：59-64
- 3)生活期における下肢装具 訪問リハビリテーションを担当する理学療法士の立場から 日本義肢装具学会 シンポジウム 2024
- 4)どうしていますか下肢装具 訪問リハビリテーション事業所の立場から 総合リハビリテーション 2025；53；991-998

【シンポジウム】 症例に学ぶ歩行・移動の再建と社会参加

「小児におけるテクノロジーを活用した歩行/移動の再建と社会参加」



島谷 康司

県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科 理学療法学コース

要旨

近年、子どもの発達を心配する養育者の声や子どもの療育・教育支援の高まりなどから、発達の遅れを指摘される乳幼児が増えており、初期歩行の獲得遅延や不安定な歩行を呈する乳幼児の相談件数も増加している。しかし、乳幼児期の子どもの歩行支援について確立した方法は見当たらない。ある日、初期歩行期の乳児が浮遊する風船の紐を把持すると明らかに歩行が安定し歩行距離が延長していることに気づいた。無秩序に浮遊する風船の紐を把持することによって乳幼児の姿勢制御能が好転する謎について、乳幼児および成人のデータから、現段階で明らかとなっていることについて解説する予定である。

略歴

【学歴】

- 1999 年 中部リハビリテーション専門学校卒業
- 2005 年 日本大学大学院 総合社会情報研究科 修了
- 2009 年 広島大学大学院 総合科学研究科 修了
- 2020 年 青山学院大学 学校教育法履修プログラム 修了
- 2026 年 星槎大学通信制課程 共生科学部初等教育専攻 修了

【職歴】

- 1999 年 医療法人里仁会 興生総合病院 リハビリテーション科
- 2006 年 県立広島大学理学療法学科（現 理学療法学コース）（現在に至る）
- 2012 年 県立広島大学大学院 総合学術研究科、助産学専攻科（兼務）（現在に至る）

その他（業績、所属学会、学会役員等）

委員等

- 2020 年 UNTRACKED 株式会社（ベンチャー企業）社外取締役 CSO（現在に至る）
- 2023 年 広島大学大学院 先進理工系科学研究科 客員教授（現在に至る）
- 2024 年 広島大学教育学部 客員教授（現在に至る）
- 2025 年 独立行政法人労働者健康安全機構 広島県産業保健総合支援センター 産業保健相談員（現在に至る）
- 2025 年 広島県特別支援教育指導委員会 委員（現在に至る）
- 2025 年 一般社団法人日本転倒科学共創機構 副代表理事（現在に至る）

業績

1. 島谷康司, 島圭介, 坂田茉実 (2021). 浮遊する風船の紐を把持した子どもの姿勢制御：乳幼児の歩行獲得支援の試み. ベビーサイエンス, 21, pp.40-48.

【準備委員会】

○集会長

猪村 剛史 (広島大学)

○準備委員長

爲廣 由季 (広島県理学療法士会)

○準備委員

内堀 靖忠 (太陽のリハげんき)

楠田 賢斗 (広島大学病院)

坂本 隆徳 (福山記念病院)

穴戸 健一郎 (五日市記念病院)

田邊 淳平 (広島都市学園大学)

藤高 祐太 (大野浦病院)
